

第6回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会

## 地域医療×データ

～地域のデータからデータサイエンティストは何を創出できるか

地域医療構想研究と医療現場の視点から～

【主催】 一般社団法人ヘルスデータサイエンティスト協会

【共催】 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構統計数理研究所共同研究「医療・看護・保健分野におけるデータサイエンティスト育成のためのシステム構築の検討」

【形式】 Web セミナー（Zoom）

【後援】 オムロンヘルスケア株式会社，株式会社医薬経済社，株式会社医療経営研究所，株式会社オデッセイコミュニケーションズ，株式会社 Open Health Initiative，株式会社社会保険研究所，株式会社社会保険出版社，株式会社タクミインフォメーションテクノロジー，株式会社バイタルネット，株式会社フィスメック，株式会社フェース，株式会社リコー，スリーワンシステムズ株式会社

【日時】 令和3年1月30日(土) 13時00分～15時00分

### 【開催趣旨】

近年、日本ではヘルスケアの領域における ICT 化の具体的方策として、地域医療ネットワーク構築が促進されています。ICT の活用により、地域住民のニーズに応じた質の高い医療提供体制やサービス及び地域包括ケアシステムの構築を目指しています。その実現のためには、地域のデータの特性を理解し、今後の地域の住民に貢献するために、適切な分析による知見を創出することです。そして、具体的な分析事例の検討を行い、地域に実装するのはこれからです。ヘルスデータサイエンティスト協会では、これまで、データアナリティクスの方法論を理解するための講演や活用事例の紹介をおこなって参りました。

今回は、「地域医療×データ～地域のデータからデータサイエンティストは何を創出できるか、地域医療構想研究と医療現場の視点から～」と題して、地域医療構想、および地域医療連携ネットワークの分野から、それぞれ第一人者の先生方をお招きし、ご講演をお願いいたします。地域のデータを扱ううえで、これからの新しい視点がデータサイエンティストにもたらされることを期待しています。

## 【プログラム】

13:00～13:05 開会挨拶

---

13:05～14:00 講演 1

松田 晋哉 氏(産業医科大学医学部公衆衛生学教室教授)

「地域医療構想のデータを利活用し、データサイエンティストは何を創出できるか、ヘルスデータサイエンティストに望むこと」

概要：地域医療構想に関連して、種々のデータが公開されている。しかしながら、そうしたデータが有効に活用されている状況にはない。本講演では、厚生労働省が公開している DPC データ、病床機能報告データ、NDB オープンデータ、内閣府が公開している「見える化」データなどを用いて、各地域の医療介護の課題を検討する方法論について紹介する。合わせて、演者らが取り組んでいる医療介護レセプトの連結分析の概要についても紹介する。

---

14:00～14:55 講演 2

佐藤 賢治 氏(新潟県厚生連佐渡総合病院院長・

NPO 法人佐渡地域医療連携推進協議会理事)

「地域医療連携システム『さどひまわりネット』と能動的なデータ活用への模索」

概要：「さどひまわりネット」は病院・診療所・歯科診療所・保険薬局・介護事業所をつなぎ、双方向で情報を共有する地域連携システム（EHR）である。自動収集を基本とした医療データ収集の仕組み、稼働後 7 年を経た利用状況と課題について紹介する。EHR は、情報の参照だけでなく、リスク因子の探索、情報プラットフォームとしての利用、さらには住民個人への行動支援につながれば真価を発揮する。これらに向けた取り組みも紹介したい。

---

14:55～15:00 閉会挨拶